

堺市の生物多様性にふれる冊子

# 堺いさものの通信



サワガニ

2026 夏 号



ニホンマムシ



ベニイトトンボ



コサギ



トケイソウ



チョウトンボ



トノサマガエル

# 堺にすむいきものたち

**生物多様性**とは、単に動物や植物の種類が多いということだけを意味するものではありません。地球上では、様々な環境の中で多様な生き物が食べる・食べられる・共生するなど、お互いにつながりをもって生きています。このように、多様な生き物がお互いにつながりをもって生きていることを生物多様性といいます。

ここでご紹介する写真は、すべて堺市内で撮影された写真です。WEBサイト「堺いきもの情報館」に市民の方などからご投稿いただきました。個性豊かな生き物たちや彼らのすみかを見て・知って、生物多様性を感じてみてください。**生物多様性とは身近なものなんですよ！**

いき  
もっと もの知りになれる！  
生物多様性のおはなし

身近な自然から広がる生物多様性のつながり

近年、野生生物を観察しながら自然の中で過ごす「ワイルドライフツーリズム」が世界的に注目されています。これは狩猟や採取といった消費型の体験ではなく、生き物の暮らしや環境そのものを楽しむ新しい旅のあり方であり、生物多様性の大切さを実感できる機会でもあります。観光によって得られた利益が保全活動や密猟対策に活用されるなど、自然と共生する仕組みづくりにもつながっています。

日本は南北に長く、山地や河川、里山、海岸など多様な環境を有し、確認されているだけでも約9万種以上の生きものが存在するといわれています。この「生きもののポテンシャルの高さ」は、世界的にも貴重であり、日本ならではの大きな魅力です。例えば、日本アルプスでライチョウを観察するツアー、屋久島の神秘的な森の中で縄文杉と出会う登山ツアー、さらに知床半島で野生動物を観察するネイチャーウォッチングなど、各地で多様な自然体験が提供されています。少し足を延ばすだけで、豊かな自然と出会える点も日本の長所といえるでしょう。

私たちの身近な地域にも、こうした豊かな自然と多様な生きものが息づいています。足元の小さな自然に目を向け、生きものの存在やつながりに気づくことが、生物多様性を守る第一歩です。公園や川辺、まちの緑の中にも、多くの命の営みが広がっています。日々の暮らしの中で自然に親しみ、その価値を感じることで、保全への意識や行動へとつながります。一人ひとりの気づきと関わりが、地域の自然環境を未来へと受け継ぐ力になります。身近な自然の魅力を再発見し、次の世代へとつないでいきましょう。



〈編集・発行〉

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL : 072-228-7440 / FAX : 072-228-7317

E-mail : kankyo@city.sakai.lg.jp



WEBサイト  
トップページ

ユーザーネーム  
sakai\_ikimono



Instagram  
アカウント